

- 当社は現在、フランジ型タンク解体を進めているEエリアを2号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設場所として、また、Eエリア近傍のJ8、J9エリアを3号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設場所として計画しています（スライド2参照）。
- ALPS処理水の海洋放出により水抜きが先行しているJ9エリアのタンクから解体作業を開始する予定です。タンク解体に先立ち、J9エリアタンク内の残水処理、周囲の干渉物撤去等の準備作業を2024年7月から順次実施しています。
- J8、J9エリアのタンク解体に関する実施計画が、2025年2月3日に認可されたことから、溶接型タンク解体の作業に着手いたします（解体期間：2024年度下期～2025年度末頃）。
- なお、J8エリアタンクは、処理途上水を貯留していることから、空となった他のタンク群へタンク内の水を移送する必要性があり、移送が完了次第、解体作業に着手します。

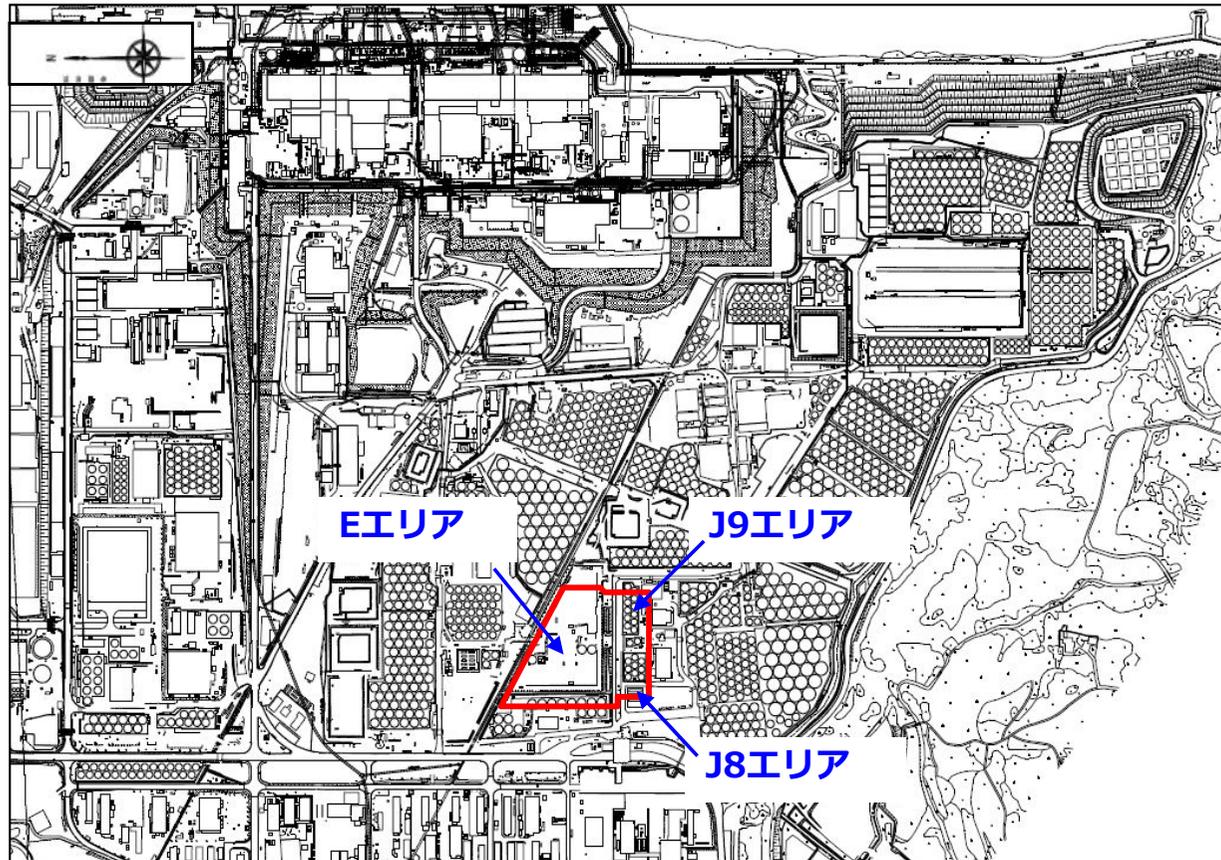
<以上、2025年2月4日までにお知らせ済み>

- このたび、J9エリアタンクの解体作業着手に向けた準備が整ったことから、解体方法および解体スケジュールについて、お知らせさせていただきます。
- J9エリアタンクは、これまでALPS処理水を貯留しており、線量測定の結果、J9エリアの全てのタンク内の線量が「バックグラウンド相当*」であることを確認しています。
- J9エリアタンクの解体は、早ければ2025年2月13日から開始し、まずは天蓋撤去に着手する予定です。J9タンクの解体完了は、2025年度末頃を予定しています。
- なお、溶接型タンクとして初めての解体事例となるため、手順等を確認し知見を蓄えながら、工程ありきではなく、安全最優先で解体作業を進めてまいります。

*バックグラウンド相当：J9エリアタンク周辺の線量の平均値以下であること

J8,J9エリアタンクの解体概要

- J8、J9エリアのタンク解体は、ALPS処理水の海洋放出により水抜きが先行しているJ9エリアから実施します。
- J9エリアタンクの解体期間は、2025年2月13日～2025年度末頃を予定しています。
- タンクの解体に先立ち、J9エリアタンク内の残水処理、周囲の干渉物撤去等を2024年7月から順次実施しており、2025年2月4日からタンク間の連結管撤去などの準備作業を開始しています。
- J8エリアタンクは、処理途上水を貯留していることから、空となった他のタンク群へタンク内の水を移送する必要があり、移送が完了次第、解体作業に着手します。



<J9エリア溶接型タンク写真>

【J8エリア】

容量 : 700m³/基
基数 : 9基
貯留水 : 処理途上水

【J9エリア】

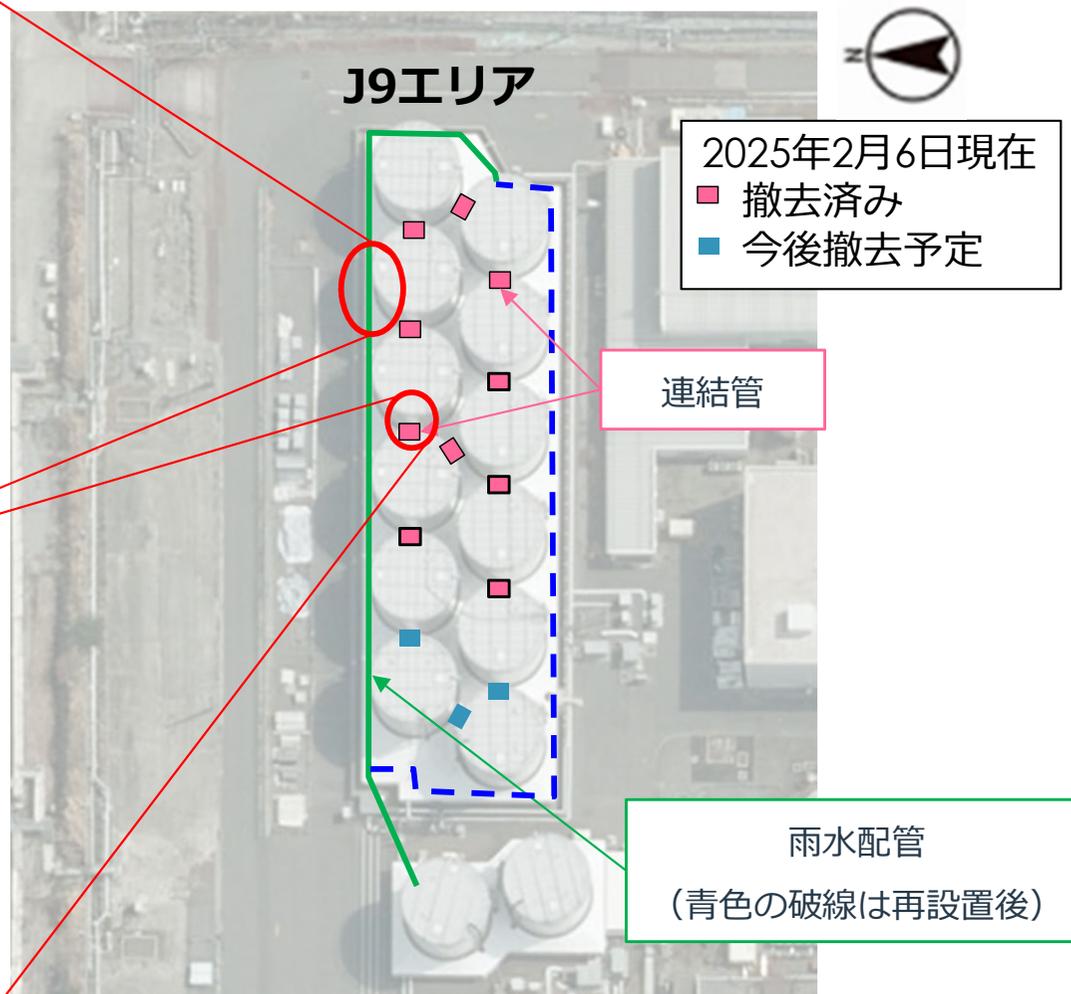
容量 : 700m³/基
基数 : 12基
貯留水 : ALPS処理水

J9エリアタンク解体に向けた準備作業の進捗

- 2025年2月4日から、タンク解体前の準備作業として、タンク間に設置されている連結管※1・弁の撤去およびタンク解体に支障となる雨水配管※2の撤去・再設置を開始しました。

※1 連結管 : タンクとタンクを繋ぐ管

※2 雨水配管 : 堰内に溜まった雨水を移送するための設備

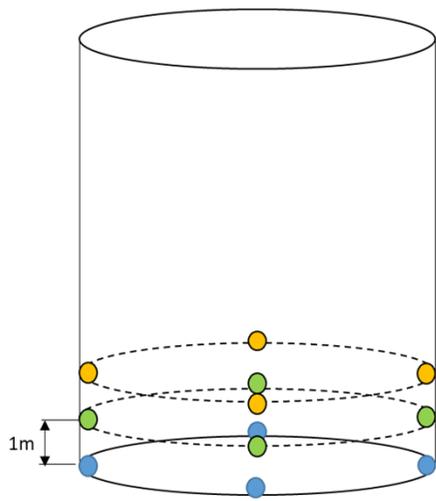


タンク解体前の内部線量調査の結果

- 2024年11月28日から2025年1月28日の間に、J9エリアの線量測定を実施しています（下図参照）。線量の測定の結果、J9エリアの全てのタンク内の線量が「バックグラウンド相当」であることを確認しています。

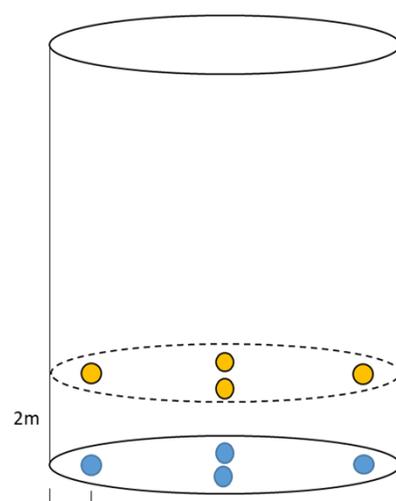
| 測定項目 | 測定箇所 | 測定値（平均—最大値） |
|--------------------------------------|--|--|
| ①表面線量率(γ)($\beta+\gamma$) | 12箇所（側板の底部および底部より1mと2mの位置で各4箇所） | γ : 0.001 - 0.001 (mSv/h) $\gamma+\beta$: 0.001 - 0.001 (mSv/h) |
| ②空間線量率(γ)($\beta+\gamma$) | 8箇所（側板からタンク中心へ1m離れた位置で底部・底部より上に2mの位置で各4箇所） | γ : 0.001 - 0.001 (mSv/h) $\gamma+\beta$: 0.001 - 0.001 (mSv/h) |
| ③表面汚染密度（間接法） | 17箇所（底板5箇所、側板の底部、底部より1mと2mの位置で各4箇所） | < 1.24E+00 (Bq/cm ²) |
| ④空气中放射性物質濃度 | 4箇所（タンク天板から6mと9mの位置で各2箇所） | < 2.19E-05 (Bq/cm ²) |

【各測定項目の測定箇所】



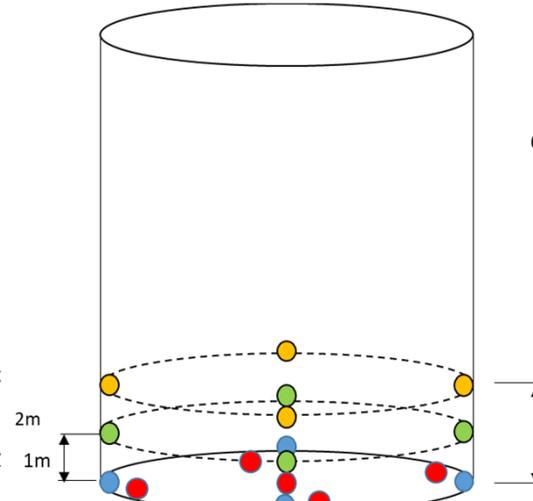
①表面線量率 12箇所

測定機器：電離箱サーベイメータ



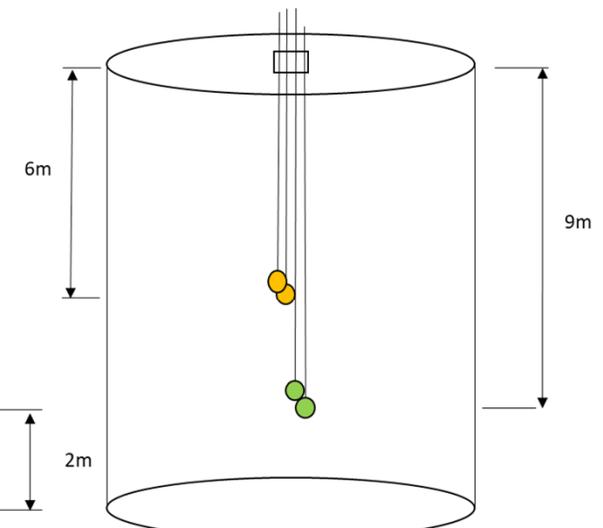
②空間線量率 8箇所

測定機器：電離箱サーベイメータ



③表面汚染密度 17箇所

測定方法：GM汚染サーベイメータ（スミア法）

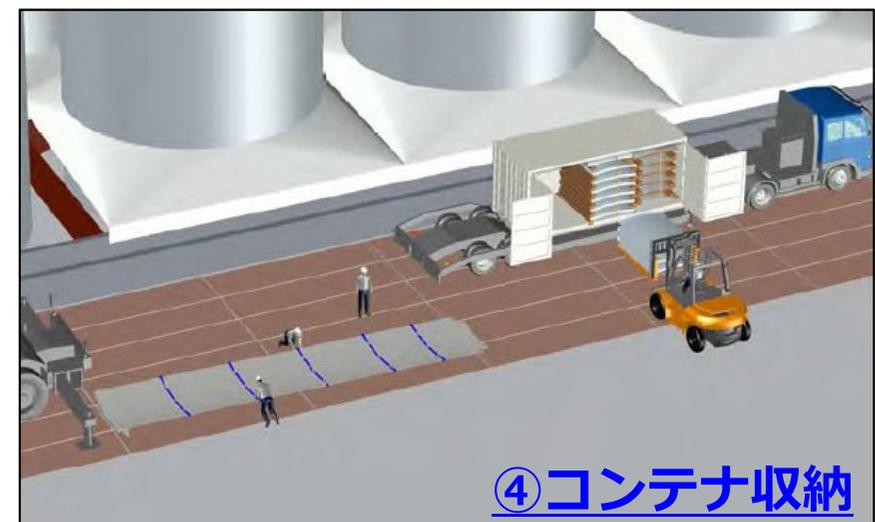
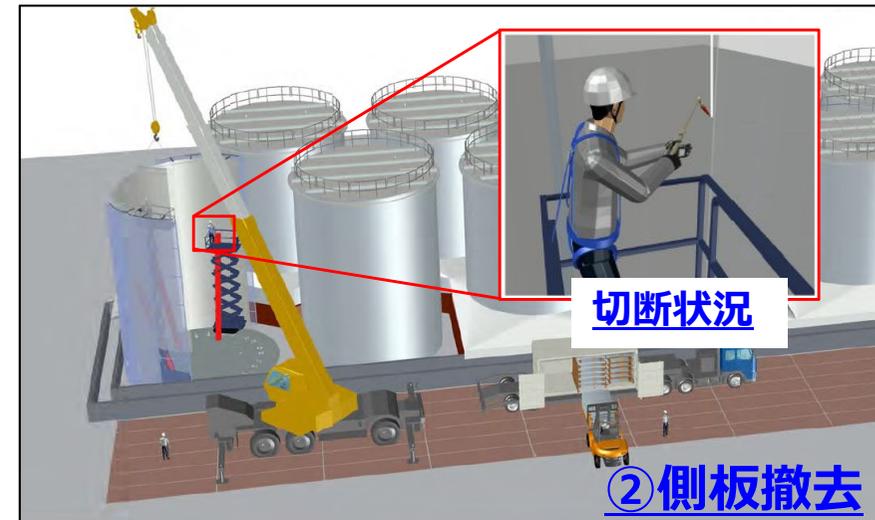


④空气中放射性物質濃度 4箇所

測定機器：コードレスダストサンプラー

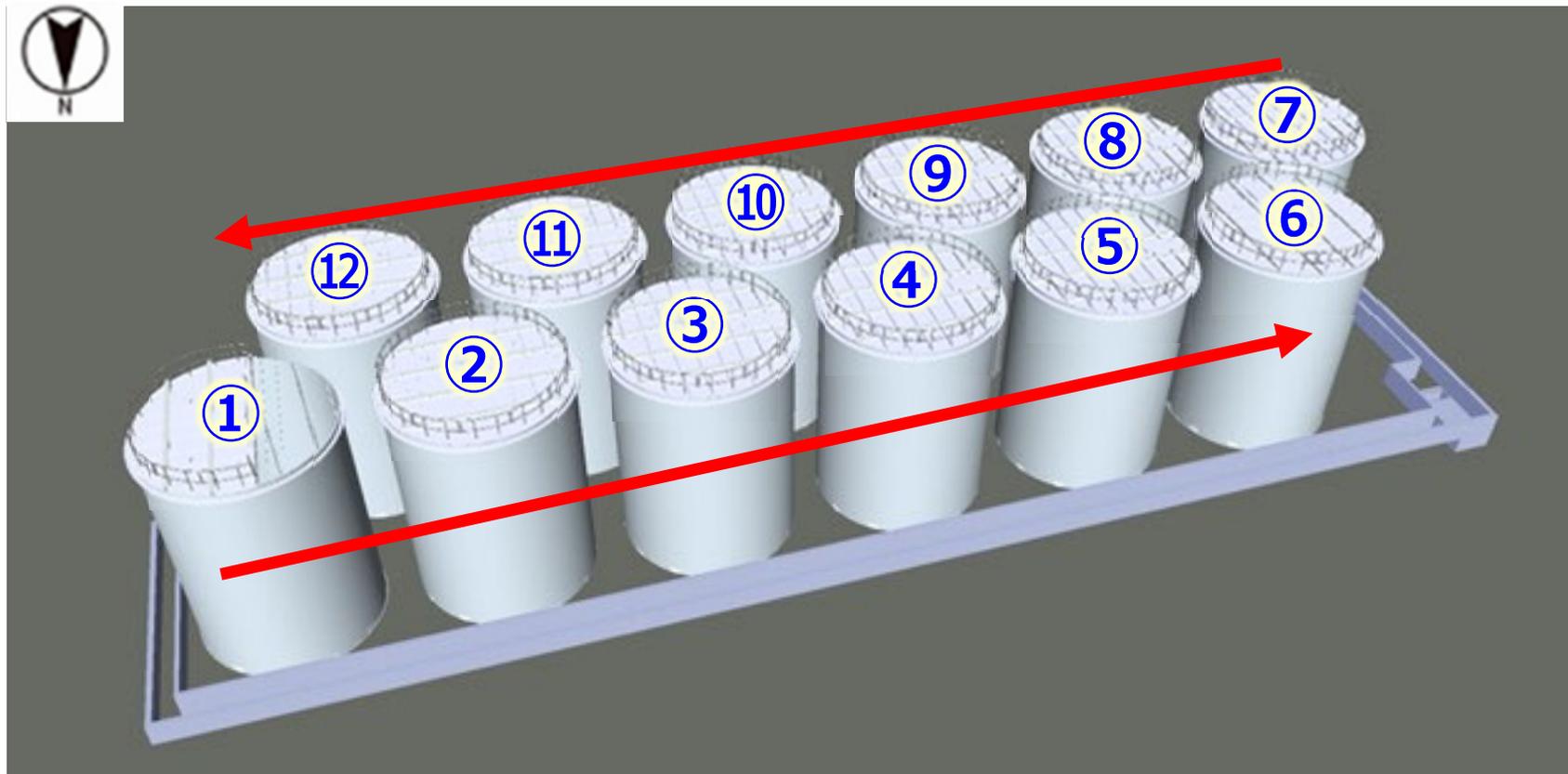
J9エリアタンクの解体方法と手順

- タンクの解体は、**天蓋→側板→底板**の順に撤去します。
- 天蓋（梯子などを含む）は、ボルトの取り外しやガスを用いた切断等により撤去します。
- 側板および底板はガスを用いて切断し、切断片をクレーンで移動します。
- タンクの解体片（天蓋、側板、底板、梯子等）はコンテナに収納できる大きさに細断し、20フィートフルハイトコンテナに収納します。



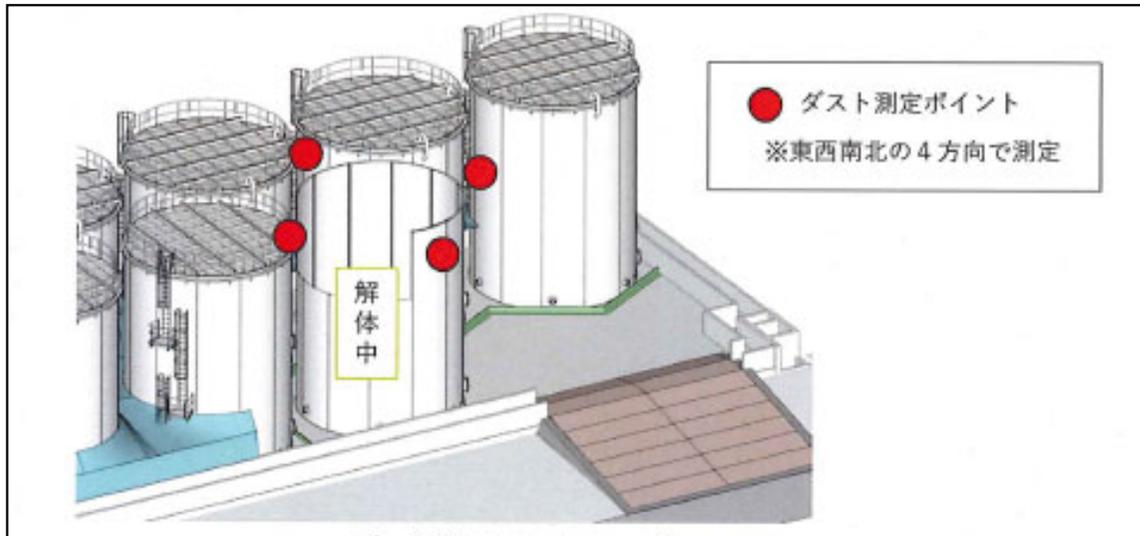
J9エリアタンクの解体順序

- タンクの解体は、下図の番号の順に2基ずつ行います（①②、③④、⑤⑥、⑦⑧、⑨⑩、⑪⑫の順で実施）。
- 北側のタンクは東側から西側に向かって解体し、南側のタンクは西側から東側に向かって解体します。



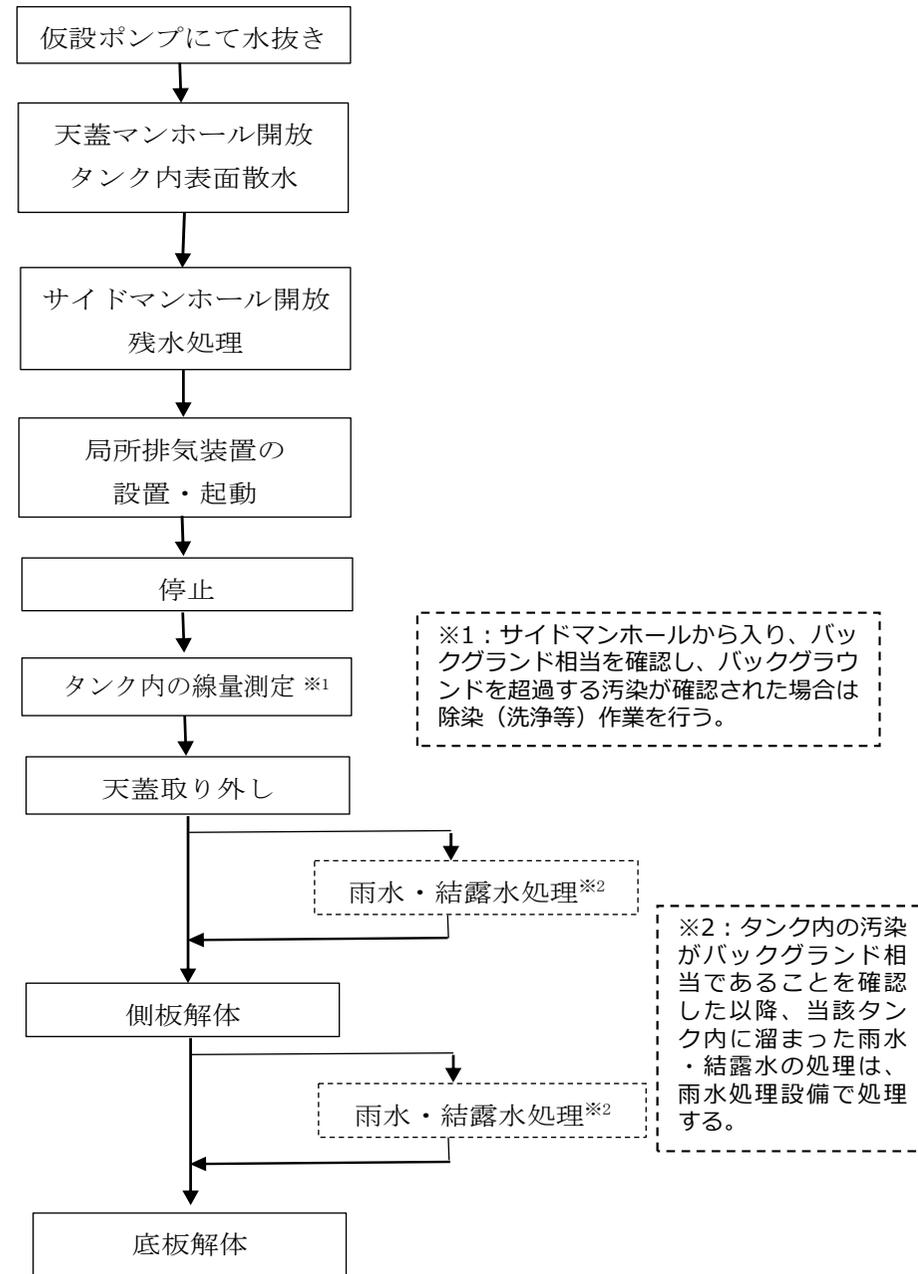
J9エリアタンクの解体における安全対策

- 解体作業フロー（右参照）に則り、これまでにタンク内の残水処理およびタンク内の線量測定を実施しています。
- 線量測定の結果、J9エリアの全てのタンク内の線量がバックグラウンド相当であることを確認していますがタンク解体中はモニタリングを、高所作業車、三脚ポール、既設タンク上部手摺にダストサンプラーを設置して行います。ダスト測定は、解体対象タンクの周囲（東西南北）で実施します。
- 万が一、ダスト測定で異常が確認された場合には、散水や集塵の強化等といった対策を実施（作業を中断）し、通常時に戻ったことを確認してから作業を再開します。



判断基準（フランジタンク解体時の作業管理基準）

- ・ダスト飛散： $5 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ （空气中ダスト濃度測定）
⇒マスク着用基準の1/4で設定



- ▶ タンク解体片を収納した20フィートフルハイトコンテナは、一時保管エリアAAに運搬し保管します。
- ▶ タンク1基あたり、20フィートフルハイトコンテナを約3.5基使用する計画です（J9エリアタンク全12基で約42基使用予定）。



<20フィートフルハイトコンテナ保管場所>



<20フィートフルハイトコンテナ収納イメージ>

J8,J9エリアタンクの解体スケジュール

- J9エリアタンクの解体期間は、2025年2月13日～2025年度末頃を予定。
- J8エリアタンクの解体期間は、タンク内の水移送等の工程を精査し、検討してまいります。
- なお、J8,J9エリアタンクの解体は、溶接型タンクとして初めての解体事例となるため、手順等を確認し知見を蓄えながら、工程ありきではなく、安全最優先で解体作業を進めてまいります。

| | | 2024年度 | | 2025年度 | | | | 2026年度 | | | |
|----|------------|--------|----|--------|----|----|----|--------|----|----|----|
| | | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| J9 | 周辺準備作業 | ■ | | | | | | | | | |
| | 残水処理 | ■ | | | | | | | | | |
| | 線量測定 | ■ | | | | | | | | | |
| | 連結管撤去 | | ■ | | | | | | | | |
| | タンク解体（堰含む） | | | ■ | | | | | | | |